



日本航空株式会社
2013年3月期
第3四半期決算説明会



2013年2月4日

2013年3月期 第3四半期 業績サマリー

- 第3四半期決算 業績概況 P.3
- 2013年3月期通期 業績見通しの変更 P.4

2013年3月期 配当方針について P.5

787型機の運航見合わせについて P.6

2013年3月期 第3四半期 業績詳細

- 連結経営成績 P.8
- 営業利益増減の推移 P.9
- 国際旅客事業 P.10-11
- 国内旅客事業 P.12-13
- 主要営業費用項目 P.14
- 財務状況 P.15
- キャッシュフロー P.16

2013年3月期通期 業績予想

- 連結業績 P.18
- 予想連結営業利益の修正 P.19
- 連結貸借対照表／キャッシュフロー P.20

参考資料

- 国際線収入大路別実績 P.22
- 2013年3月期予想(航空運送事業) P.23
- 航空機保有数の推移 P.24
- 路線・便数計画の更新情報 P.25



JAPAN AIRLINES

2013年3月期 第3四半期 業績サマリー

常務執行役員 財務経理本部長 齊藤 典和



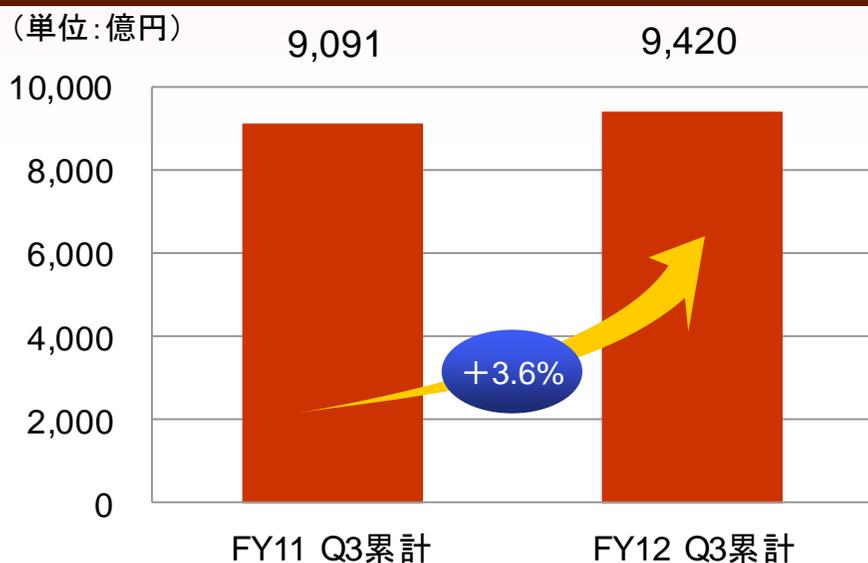
JAPAN AIRLINES

Intentionally Blank Page

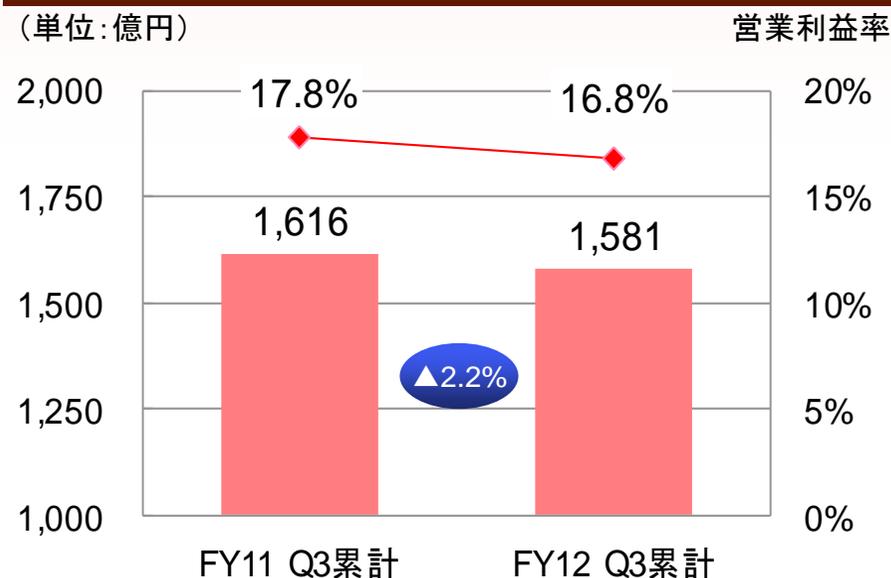
第3四半期決算 業績概況

- ✓ 第3四半期累計の営業利益は1,581億円となり(前年同期比で▲2.2%)、高い営業利益率を維持
- ✓ 自己資本比率は44.8%となった

営業収益



営業利益

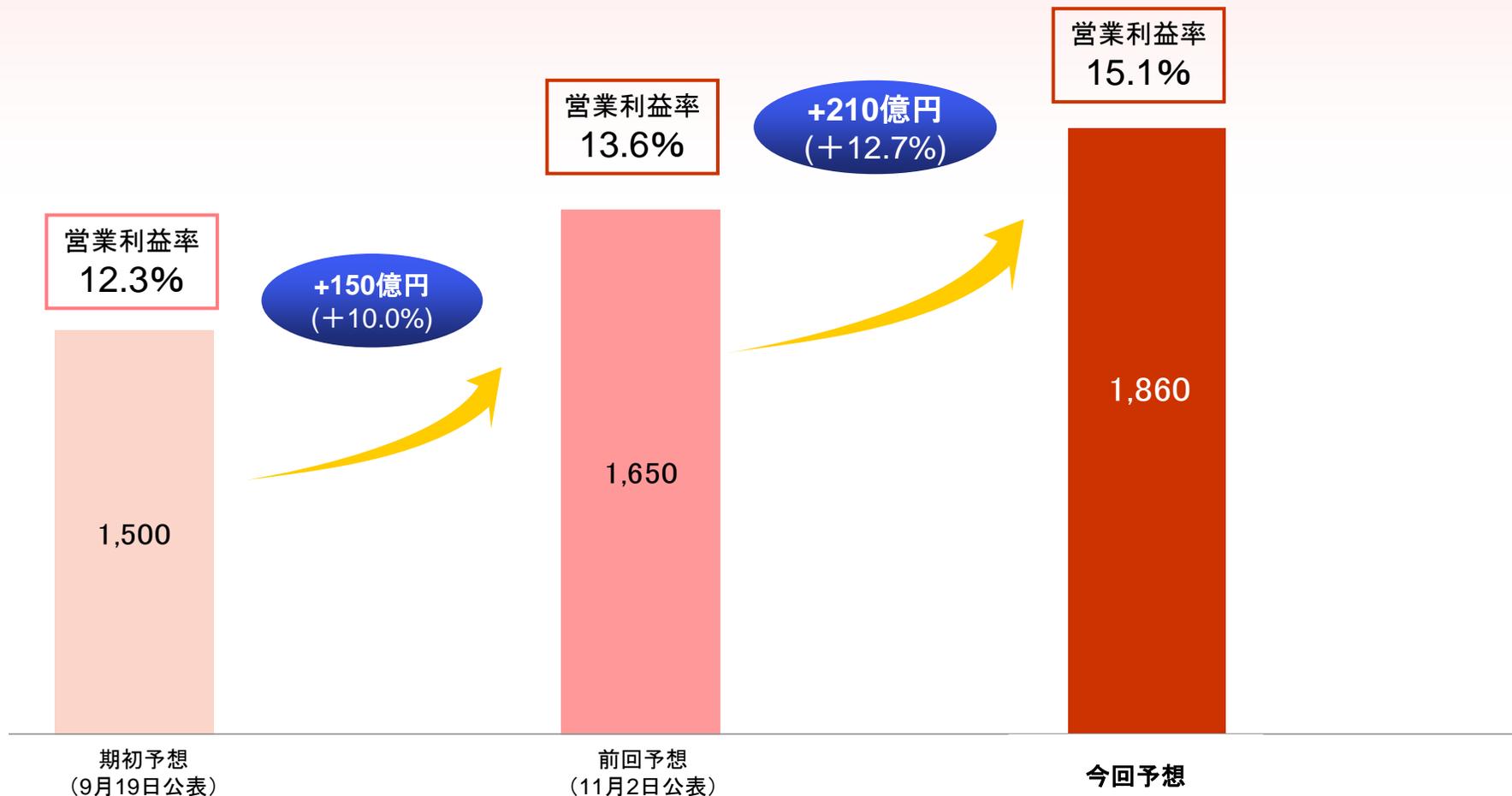


(単位:億円)	前年度末 2012/3/31	当四半期末 2012/12/31	前年度末差
自己資本比率 (%)	35.7%	44.8%	+9.1pt

- 今第3四半期累計の営業収益は、9,420億円、営業利益は、1,581億円となりました。
営業利益率は昨年より1%減少したものの、16.8%と引き続き高い水準を維持いたしました。
- 資本は、順調に積み上がり、自己資本比率は前年度末35.7%であったところ、当四半期末は44.8%となりました。
- 中期経営計画の目標値として掲げた50%に向けて、順調に進捗しております。

営業利益の上方修正

(単位: 億円)



- 今年度は第3四半期まで、営業利益が堅調に推移したことや費用効率化が着実に進んでいる状況を踏まえ、この度2013年3月期通期の業績予想を上方修正することといたしました。
- 営業利益は第2四半期決算発表にて公表した、1,650億円から210億円増加の、1,860億円。営業利益率については1.5pt増加の、15.1%になる見込みです。

配当性向の修正

- ✓ 株主の皆さまへ積極的に利益還元する基本方針に鑑み、今期配当性向を15%程度から20%程度へ修正
- ✓ 目標とする自己資本比率50%達成を控え、株主還元策を強化



配当金の見通し

	2013/3/31
2013年3月期 当期純利益 見通し	1,630億円
発行済株式数	181,352,000株
2013年3月期 配当金	180円00銭

- 当社は株主の皆さまへの還元を経営の最大の目標の1つと位置づけており、安定的に収益を上げ、配当していくことを目指しております。
- 従来、目安とすべき配当性向としまして、連結当期純利益の15%程度を表明し、財務体質強化のため自己資本比率が50%に達した段階で見直しを検討する、とお話させていただいておりました。
- 上場以来、多くの投資家の皆さまから株主還元の充実を求めるお声をいただいております。当社経営としてこれを真摯に受け止め積極的にお答えしたいこと、また今般、業績が堅調に推移し自己資本比率50%の達成が視野に入ってきたことから、今期以降の配当性向の上方修正を決定いたしました。
- 今期以降の配当性向は連結当期純利益の20%程度とし、現状の利益見通しにおける一株当たり配当金は180円00銭を見込んでおります。
- 引き続き、収益性を重視した経営を行い、株主の皆さまと成長を分かち合えるよう取り組んでまいります。

787型機の運航見合わせについて

- 1月16日より787型機(保有7機)による運航を見合わせ
- 保有代替機材による運航を実施

至近の対応

【一時的に運休】

路線	運休期間	週間便数
成田=サンディエゴ	2013年 1月16日～28日	4

(2月4日時点)

【代替機材による運航】

路線	代替機材	変更期間※	週間便数
成田=ポストン	777-200ER	2013年 1月19日～	7
成田=サンディエゴ	777-200ER	2013年 1月30日～	4
成田=モスクワ	777-200ER	2013年 1月18日～	3
成田=シンガポール	767-300ER	2013年 1月19日～	14
羽田=シンガポール	767-300ER	2013年 1月19日～	7
羽田=北京	767-300ER	2013年 1月17日～	7

1月16日～2月28日間の欠航

	便数	影響旅客数
欠航	56	約6,570名

今後の対応について

➤ 既存787型機投入路線について

- ・ 自社保有機材へ機材変更し運航を継続
一部路線において運航日、スケジュール変更を実施

(2月4日時点)

2/18-28	欠航
成田=ポストン	4便
成田=サンディエゴ	2便

➤ ヘルシンキ路線について

- ・ 2月25日の開設を延期することを決定
- ・ 新しい開設時期は確定次第改めてご案内

参考

【機種別 座席数】

機材	座席数
787-8	186 (C ⁽¹⁾ :42 Y ⁽²⁾ :144)
777-200ER ⁽³⁾	245 (C:56 Y:189)
767-300ER ⁽³⁾	227 (C:30 Y:197)
737-800 ⁽³⁾	144 (C:12 Y:132)

注:

1. C=ビジネスクラス 2. Y=エコノミークラス 3. 代表機材例

※2月28日までの期間。3月1日以後の運航便状況については決定次第お知らせ



- ボーイング787型機の運航見合わせについてご説明いたします。
- 当社はボーイング787型機の運航を1月16日から運航を見合わせており、1月31日までに28便が欠航いたしました。
- また、今月25日に東京=ヘルシンキ線を開設予定でありましたが、開設時期を見直すことといたしました。新しい開設時期につきましては準備ができ次第発表させていただきます。
- ボーイング787型機の運航見合わせによりお客さま、関係の皆さまにご迷惑・ご心配をおかけしておりますことを、心よりお詫び申し上げます。



JAPAN AIRLINES

2013年3月期 第3四半期 業績詳細



JAPAN AIRLINES

Intentionally Blank Page

連結経営成績



JAPAN AIRLINES

- ✓ 営業収益9,420億円、営業利益1,581億円
- ✓ 売上高営業利益率は16.8%

(単位:億円)	前年同期	第3四半期累計	前年同期比	第3四半期 ⁽¹⁾	前年同期比
営業収益	9,091	9,420	+3.6%	3,078	▲0.5%
航空運送連結	8,169	8,430	+3.2%	2,753	▲0.8%
営業費用	7,474	7,838	+4.9%	2,618	+3.2%
航空運送連結	6,674	7,043	+5.5%	2,353	+3.8%
営業利益	1,616	1,581	▲2.2%	459	▲17.1%
航空運送連結	1,494	1,387	▲7.2%	400	▲21.4%
営業利益率 (%)	17.8%	16.8%	▲1.0pt	14.9%	▲3.0pt
経常利益	1,560	1,542	▲1.2%	431	▲18.4%
四半期純利益	1,460	1,406	▲3.7%	409	▲15.8%
RPK(百万人キロ)	38,816	43,009	+10.8%	14,468	+6.6%
ASK(百万席キロ)	58,532	61,075	+4.3%	20,279	+1.3%
EBITDAマージン (%) ⁽²⁾	24.7%	23.3%	▲1.3pt	21.7%	▲3.0pt
EBITDARマージン (%) ⁽³⁾	27.3%	25.8%	▲1.5pt	24.2%	▲3.2pt
ユニットコスト(円) ⁽⁴⁾	11.4	11.5	+0.1	11.6	+0.1

注:

1. 第3四半期(10-12月)の実績は第3四半期累計実績(4-12月)から第2四半期(4-9月)の実績を差し引いて算出
2. EBITDAマージン=EBITDA/営業収益 EBITDA=営業利益+減価償却費
3. EBITDARマージン=EBITDAR/営業収益 EBITDAR=営業利益+減価償却費+航空機材賃借料
4. ユニットコスト=航空運送連結費用/ASK



- 当第3四半期の営業収益は内際における旅客数の増加を主な要因として前年同期対比で3.6%増加し、9,420億円となりました。
- 商品サービス強化のための費用、航空機償却年数短縮による減価償却費の増加、燃油市況の上昇等により営業費用は、対前年同期比で4.9%増の7,838億円となっております。
- 以上の結果、当社の営業利益は対前年比2.2%減少し、1,581億円となりました。

営業利益増減の推移

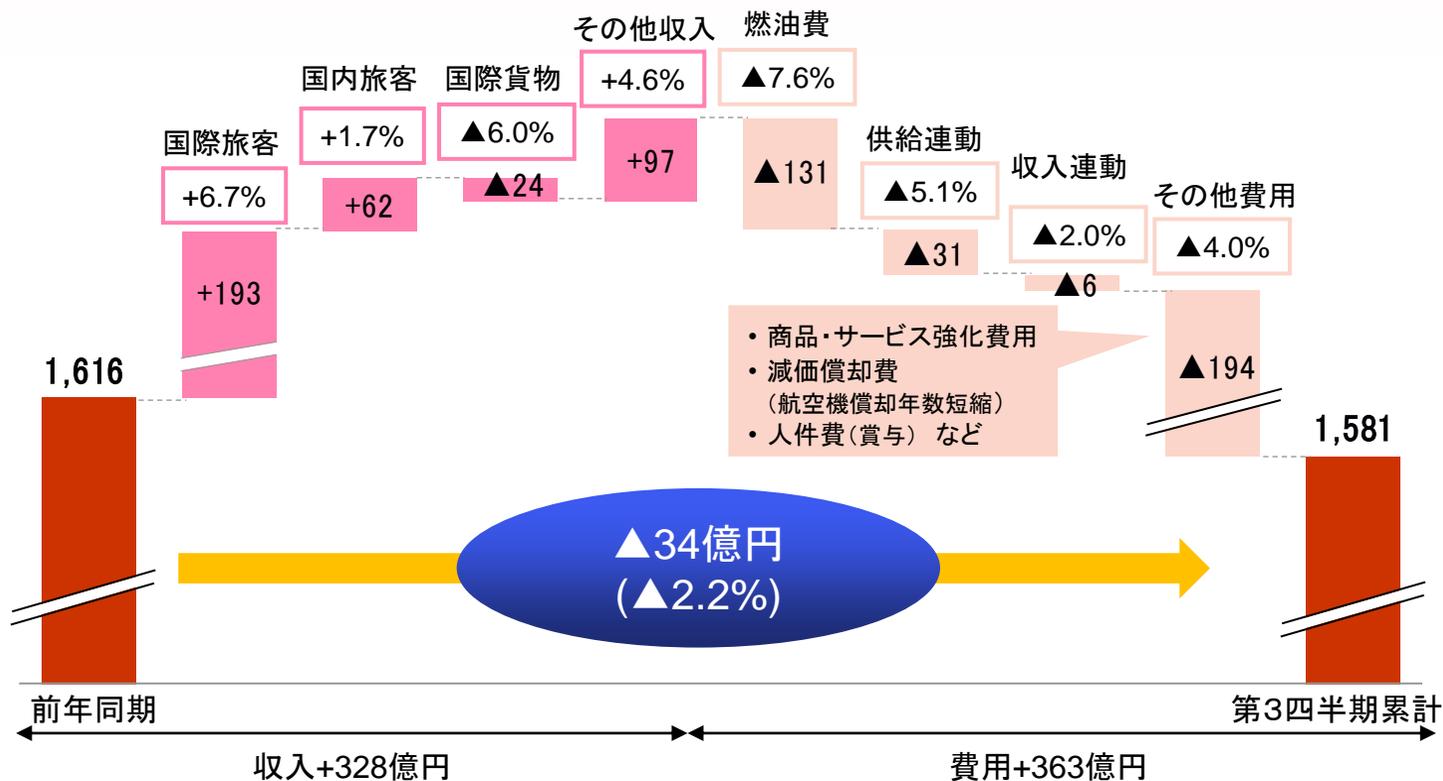


JAPAN AIRLINES

第3四半期累計

ASK前年同期比: +4.3%
 RPK前年同期比: +10.8%

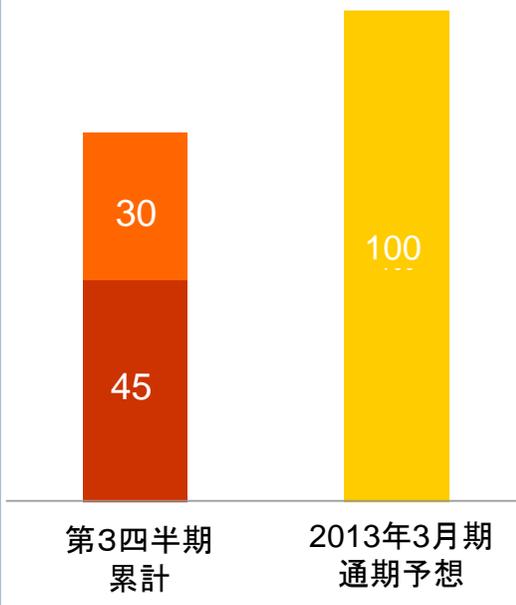
(単位: 億円)



費用効率化の進捗状況(航空運送事業)

(単位: 億円)

- 部門別採算制度の浸透による、費用削減
- 生産性向上による費用削減



- 収入面では旅客数増加による収入増、そして関連会社の収入増によって、合計328億円の収入増になりました。
- 費用面では、燃油価格の上昇、供給量の増加により燃油費が増加したほか、商品・サービス強化のための費用、航空機償却年数短縮による減価償却費、賞与の引上げによる人件費が増加しました。
- 以上、328億円の収入増、363億円の費用増の結果、営業利益は前年同期を34億円下回りました。
- また右のグラフにあります通り、2016年度までの500億円規模の費用効率化のうち、今年度は約100億円の効率化を目指しています。本四半期までに75億円のコスト削減を達成し、順調に進捗しております。ユニットコストは11.5円と今年度の予想値と同水準を維持しております。

国際旅客事業(輸送実績)



JAPAN AIRLINES

国際線	前年同期	第3四半期累計	前年同期比	第3四半期	前年同期比
旅客収入(億円)	2,889	3,083	+6.7%	980	▲0.1%
有償旅客数(千人)	4,971	5,618	+13.0%	1,840	+4.5%
RPK(百万人キロ)	22,067	25,430	+15.2%	8,578	+11.8%
ASK(百万席キロ)	32,059	33,387	+4.1%	11,260	+3.4%
座席利用率(%)	68.8%	76.2%	+7.3pt	76.2%	+5.7pt
ユニットレベニュー(円) ⁽¹⁾	9.0	9.2	+2.5%	8.7	▲3.4%
イールド(円) ⁽²⁾	13.1	12.1	▲7.4%	11.4	▲10.6%
単価(円) ⁽³⁾	58,132	54,878	▲5.6%	53,278	▲4.4%

注:

1. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
2. イールド=旅客収入/RPK
3. 単価=旅客収入/有償旅客数

- 国際線においては、当第3四半期累計における有償旅客数が対前年比で13%増加、RPKが15.2%増加と、需要の伸びが順調に進んでおります。
- 一方、需要の増加に伴い、復調した観光や海外発の旅客数の大幅な増加に伴い需要構成が変動し、前年同期比で単価は5.6%、イールドは7.4%減少いたしましたが、旅客収入は6.7%程度増加しています。

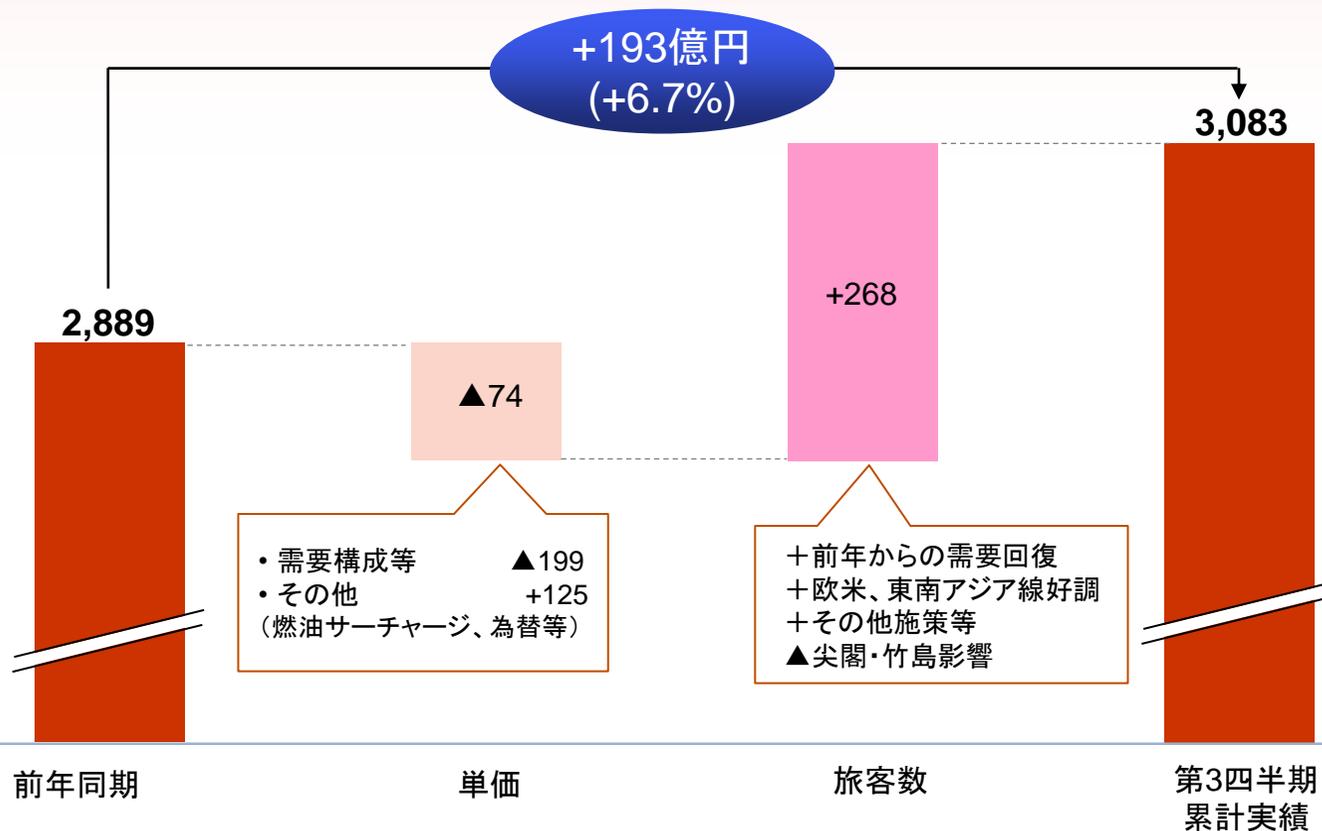
国際旅客事業（旅客収入の推移）



JAPAN AIRLINES

✓ 旅客数の増加を主因として、第3四半期累計で前年同期比193億円の増収

第3四半期累計



➤ 欧米、東南アジア等の中長距離路線好調

<L/F>	当年	(前年)
米州線	75.9%	(74.4%)
欧州線	75.9%	(71.8%)
東南アジア線	78.0%	(68.2%)

➤ 成田=ポストン/サンディエゴ線就航

➤ 尖閣・竹島問題影響

9~12月のマイナス影響額は約45億円(国際旅客収入の1.5%程度)

- 国際旅客事業では、第2四半期に引き続き、震災影響からの需要回復がみられ、特に欧米、東南アジア等の中長距離路線が好調に推移しました。
- 一方、中国線は尖閣問題により需要が大きく減退しております。当社は需要減退による影響を最小限にとどめるべく、10月から11月にかけて一部運休を実施するなどいたしました。
- 単価については、日本発観光需要、また海外発需要の回復が進んだことから、客体構成が変化し、単価は下落いたしました。
- しかし震災からの回復に伴う需要増や、新規就航などの自社供給の増加、円高を背景とした観光需要の取り込みに加え、きめ細やかな予約管理の徹底によるロードファクター(利用率)向上施策等により、旅客数を大幅に増やし、当第3四半期累計では前年比で6.7%増収し3,083億円となりました。

国内旅客事業(輸送実績)

国内線	前年同期	第3四半期累計	前年同期比	第3四半期	前年同期比
旅客収入(億円)	3,672	3,734	+1.7%	1,230	▲0.7%
有償旅客数(千人)	21,839	22,946	+5.1%	7,719	+0.7%
RPK(百万人キロ)	16,748	17,579	+5.0%	5,889	▲0.1%
ASK(百万席キロ)	26,472	27,687	+4.6%	9,019	▲1.1%
座席利用率(%)	63.3%	63.5%	+0.2pt	65.3%	+0.7pt
ユニットレベニュー(円) ⁽¹⁾	13.9	13.5	▲2.8%	13.6	+0.4%
イールド(円) ⁽²⁾	21.9	21.2	▲3.1%	20.9	▲0.6%
単価(円) ⁽³⁾	16,817	16,276	▲3.2%	15,935	▲1.4%

注:

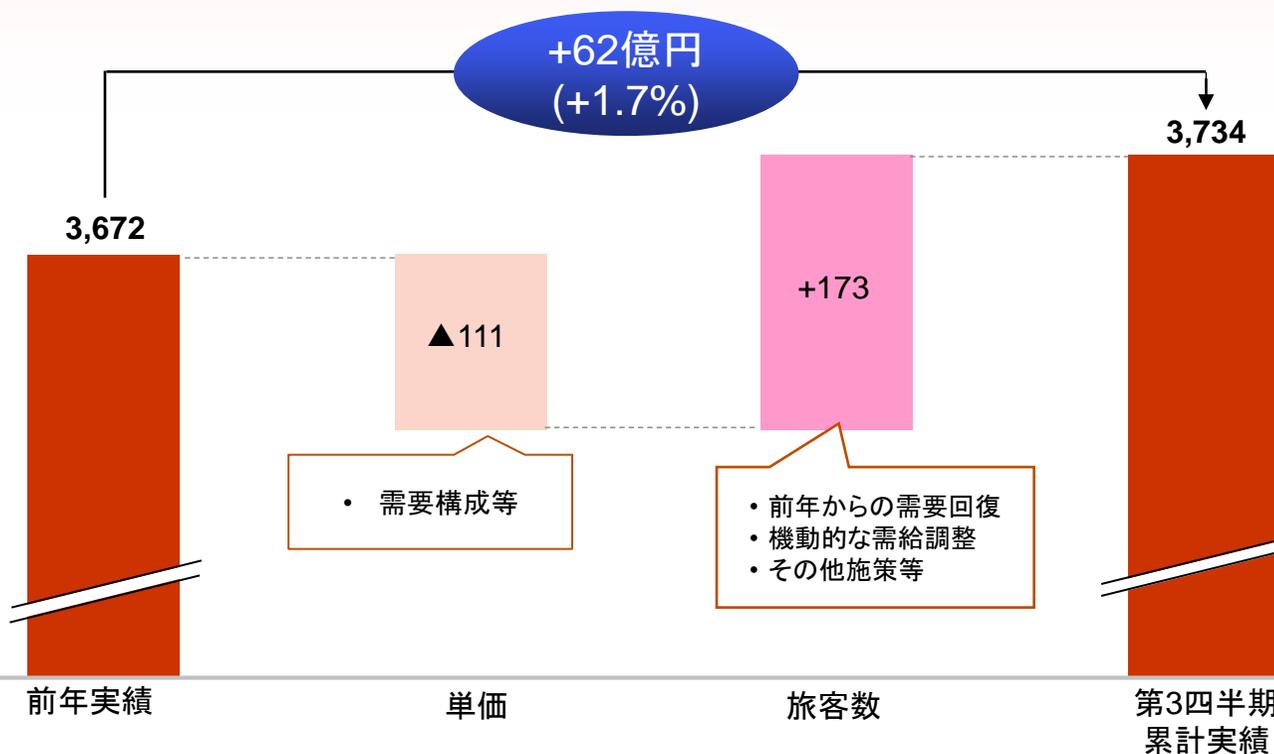
1. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
2. イールド=旅客収入/RPK
3. 単価=旅客収入/有償旅客数

- 国内旅客事業においても引き続き、昨年からの需要の回復が進んでおります。
- 方面別では特に九州、沖縄路線が堅調に推移いたしました。
- 国内旅客事業も、国際旅客同様、主に観光需要による旅客数の増加に伴い、需要構成が変動し、単価及びイールドはともに前年同期比3%程度減少いたしました。旅客収入は1.7%増加いたしました。

国内旅客事業(旅客収入の推移)

✓ 安定した国内旅客収入を維持し、第3四半期累計で前年同期比で62億円増

第3四半期累計



- ファーストクラス設定便の増加、羽田=沖縄線への導入
- クラスJの増席
- 福岡=花巻 札幌=新潟線の再開
- 羽田=出雲、札幌=仙台、福岡=宮崎線の増便
- 年末年始期間に「先得」「スーパー先得」を設定

- 前年は震災の影響で観光需要が落ち込みましたが、当年はそれらの需要が大きく戻ってきたことに伴い、客体構成が変化したことから、単価については減収側に働きました。
- しかしながら、年末年始期間に需要喚起系運賃を設定するなど、お客さまの多様なニーズにお応えする運賃設定や、増便・運航機材の大型化実施により、個人・団体の多くのお客さまにご利用いただいた結果、当第3四半期累計では前年比で約1.7%増収の3,734億円となりました。

主要営業費用項目



JAPAN AIRLINES

営業費用内訳

(単位: 億円)	前年同期	第3四半期累計	前年同期比	第3四半期 ⁽¹⁾	前年同期比
燃油費	1,724	1,856	+7.6%	614	+4.9%
運航施設利用費	534	566	+5.9%	186	+1.9%
整備費	183	236	+29.1%	87	+24.9%
販売手数料	169	153	▲9.1%	51	▲12.6%
航空機材減価償却費	419	457	+9.0%	154	+10.7%
航空機材賃借料	244	234	▲4.0%	76	▲3.0%
人件費	1,590	1,693	+6.5%	564	+3.9%
その他	2,609	2,640	+1.2%	882	+0.5%
営業費用計	7,474	7,838	+4.9%	2,618	+3.2%

(参考)ASK 第3四半期累計前年同期比: +4.3%

燃油・為替前提

	前年同期	第3四半期 累計	前年 同期比	第3四半期	前年 同期比
燃油: シンガポールケロシン (ドル/BBL)	128.2	126.5	▲1.3%	129.3	+3.5%
燃油: 日本入着原油 (ドル/BBL)	111.9	114.9	+2.7%	113.6	+3.0%
為替: USDドル(円/ドル)	79.0	80.1	+1.4%	79.8	+3.9%

燃油・為替の感応度

(営業利益ベース/ヘッジしない場合)

(億円)	FY11	FY12
原油 (1ドル/BBL変動)	20	20
為替 (1円/米ドル)	25	25

注:

- 第3四半期(10-12月)の実績は第3四半期累計実績(4-12月)から第2四半期累計(4-9月)の実績を差し引いて算出

- 燃油市況上昇と供給量増加により燃油費が7.6%増加
- 供給の増加により運航施設利用費は5.9%増加。
- 定期整備件数の増加により、整備費が29.1%上昇。
- 航空機材減価償却費については新造機の導入および償却期間の短縮を行ったことで9.0%増加。
- 人件費につきましては、賞与水準の回復に伴い、6.5%増加。

- その他費用は1.2%増加しており、その内訳としては、商品サービス強化策実施等による費用が増加しておりますが、部門別採算浸透による各部門での経費削減の結果、共通経費は減少しており、費用増加を抑制しています。

- ✓ 有利子負債残高は返済により1,751億円
- ✓ 自己資本比率は9.1pt増加の44.8%

(単位:億円)	前年度末 2012/3/31	当四半期末 2012/12/31	前年度末差
総資産	10,876	11,768	+892
現金及び預金	2,724	3,174	+450
有利子負債残高 ⁽¹⁾	2,084	1,751	▲333
オフバランス未経過リース料	2,294	2,085	▲209
自己資本	3,885	5,271	+1,385
自己資本比率 (%)	35.7%	44.8%	+9.1pt
D/Eレシオ(倍) ⁽²⁾	0.5x	0.3x	▲0.2x
ネットD/Eレシオ(倍) ⁽³⁾	▲0.2x	▲0.3x	▲0.1x

注:

1. 割賦未払金が含まれる
2. D/Eレシオ=(オンバランス有利子負債)÷(自己資本)
3. ネットD/Eレシオ=(オンバランス有利子負債-現預金)÷(自己資本)
小数第2位を四捨五入

(参考)

オフバランス未経過リース料込みのD/Eレシオ:0.7x、ネットD/Eレシオ:0.1x

- 次の頁では当社の財務状況についてご説明いたします。
- 有利子負債は昨年度末と比較して、長期借入金やリース債務の返済が進み、有利子負債残高は1,751億円となりました。
- 自己資本比率は44.8%に達し、中計の目標値である50%に一層近づきました。今後も継続して資本を積み上げ、早期に50%の目標を超えたいと考えております。

キャッシュフロー



JAPAN AIRLINES

(単位:億円)	前年同期	第3四半期累計	前年同期差
税金等調整前四半期純利益	1,612	1,540	▲72
減価償却費	624	616	▲8
その他	▲330	▲167	163
営業キャッシュフロー合計	1,907	1,989	82
設備投資額 ⁽¹⁾	▲810	▲1,106	▲295
その他	306	▲10	▲317
投資キャッシュフロー合計⁽²⁾	▲504	▲1,117	▲613
フリーキャッシュフロー⁽³⁾	1,403	872	▲530
有利子負債返済 ⁽⁴⁾	▲2,517	▲349	2,168
その他	12	▲84	▲97
財務キャッシュフロー	▲2,504	▲434	2,070
キャッシュフロー合計⁽⁵⁾	▲1,101	438	1,539
EBITDA	2,241	2,198	▲43
EBITDAR	2,485	2,432	▲52

注:

1. 固定資産の取得による支出
2. 定期預金の入出金を除く
3. 営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー
4. 長期借入金の返済+リース債務の返済
5. 営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー+財務キャッシュフロー



JAPAN AIRLINES

2013年3月期通期 業績予想

2013年3月期業績予想(連結業績)



JAPAN AIRLINES

(単位:億円)	FY11実績	FY12今回予想	FY12前回予想	前回予想差
営業収益	12,048	12,280	12,150	+130
営業費用	9,998	10,420	10,500	▲80
営業利益	2,049	1,860	1,650	+210
経常利益	1,976	1,770	1,550	+220
当期純利益	1,866	1,630	1,400	+230

(単位:億円)		FY12今回予想	FY12前回予想
営業収益	国際旅客収入	4,040	3,920
	国内旅客収入	4,820	4,820
	貨物郵便収入	840	840
	その他の収入	2,580	2,570
燃油費		2,480	2,520
燃油費以外		7,940	7,980
ユニットコスト(円)		11.5	11.5

	FY12今回予想	FY12前回予想
ASK(FY11実績を100として)	103.9	104.6
国際線	104.6	105.7
国内線	103.1	103.3
RPK(FY11実績を100として)	107.7	106.5
国際線	111.0	109.9
国内線	103.1	102.8
燃油前提(米ドル/BBL)		
シンガポールケロシン	130	130
日本入着原油(CIFJ)	119	119
為替前提(ドル/円)	85.0	85.0

- 2013年3月期通期の営業収益予想は前回予想の1兆2,150億円から130億円増加し、1兆2,280億円になると見込んでいます。
- また、営業利益は前回予想より210億円、経常利益は220億円上方修正し、営業利益、1,860億円、経常利益は1,770億円となります。
- 当期純利益に関しては1,400億円から230億円増加し、1,630億円になる見込みです。

- なお、為替・燃油前提は1ドル85円、シンガポールケロシン130ドル/バレル、日本入着原油(CIFJ)は119ドル/バレルにおいており前回予想と変更はありません。

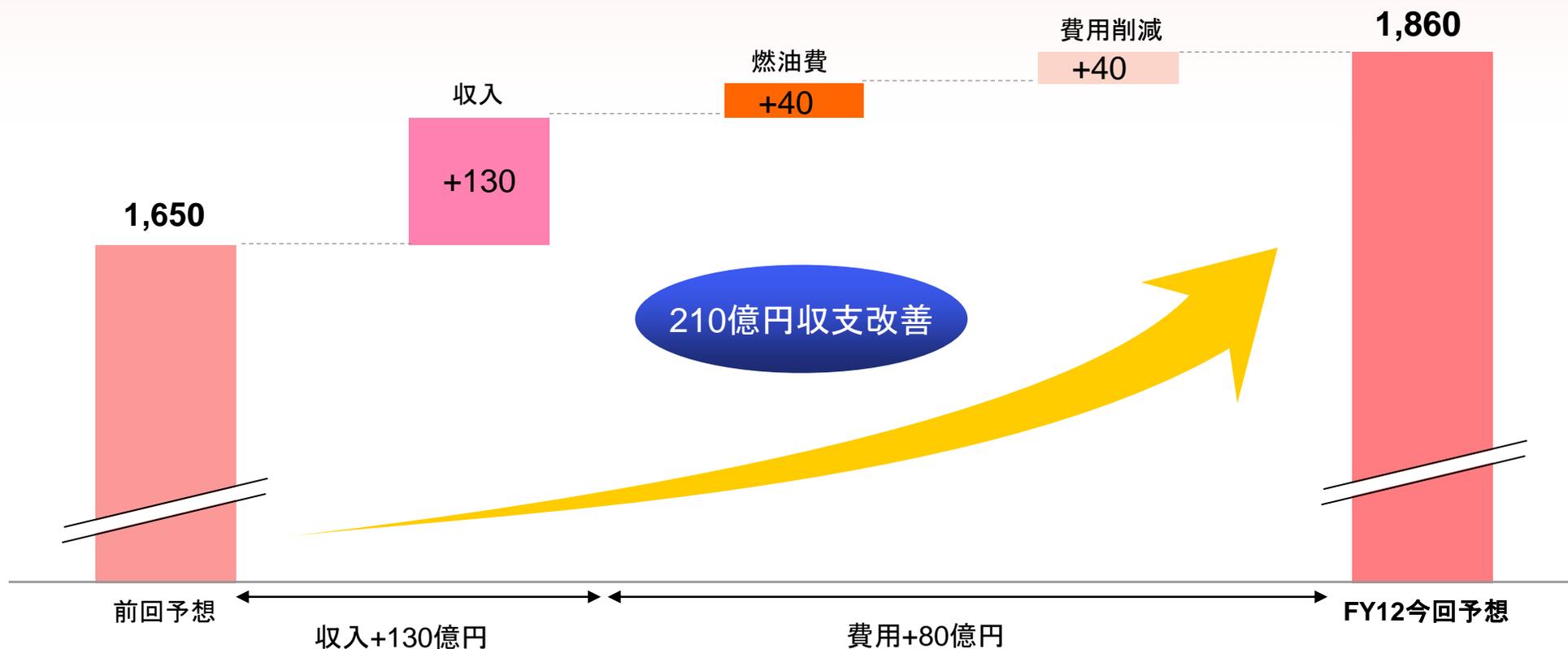
2013年3月期業績予想(予想連結営業利益の修正)



JAPAN AIRLINES

- ✓ 前回公表業績予想より営業利益は210億円改善し、1,860億円へ上方修正
- ✓ 営業収益は130億円増加、燃油費は40億円減少し、その他費用項目で40億円の削減の見込み

(単位:億円)



- 営業利益を1,650億円から1,860億円に上方修正しております。
- 787型機の運航を、年度末まで見合わせると仮定した場合の収支影響マイナス7億円は、今回の修正予想には織り込み済みです。

- 今回見通しでは営業収益で130億円の増加、燃油費で40億円の減少、またその他のコストにおいて、40億円の削減が実現できると想定しています。
- 営業収益が130億円回復する背景としては、欧米、東南アジア、ホノルル線が好調に推移しているほか中国線の影響が、当初見通しと比べ限定的となる見通しとなったことによります。
- また燃油費の減少は、市況の上昇が想定以下だったことによるものです。
- その他40億円のコスト削減に関しては、供給等諸元見直しに伴う費用減および、共通経費の削減等による成果です。

2013年3月期業績予想(連結貸借対照表/キャッシュフロー)



JAPAN AIRLINES

連結貸借対照表

(億円)	FY11末実績	FY12今回予想	FY12前回予想	前回予想差
総資産	10,876	11,900	11,740	+160
有利子負債残高	2,084	1,590	1,750	▲160
自己資本	3,885	5,440	5,210	+230
自己資本比率 (%)	35.7%	45.7%	44.4%	+1.3pt
ネットD/Eレシオ(倍) ⁽¹⁾	0.4x	0.0x	0.0x	▲0.0x
ROA (%) ⁽²⁾	14.8%	15.2%	12.4%	+2.8pt

連結キャッシュフロー

(億円)	FY11実績	FY12今回予想	FY12前回予想	前回予想差
営業キャッシュフロー	2,566	2,460	2,160	+300
投資キャッシュフロー ⁽³⁾	▲624	▲1,310	▲1,110	▲200
フリーキャッシュフロー ⁽³⁾	1,941	1,150	1,050	+100
財務キャッシュフロー	▲2,744	▲570	▲410	▲160
EBITDA	2,861	2,660	2,450	+210
EBITDAR	3,184	2,980	2,770	+210

注:

1. ネットD/Eレシオ=(オンバランス有利子負債+オフバランス未経過リース料-現預金)/(自己資本)、予想値に関しては航空機未経過リース料予想値を用いる
2. ROA = 営業利益/(((期初総資産+期末総資産)+(期初オフバランス未経過リース料+期末オフバランス未経過リース料))/2)、
予想値に関しては航空機未経過リース料予想値を用いる
3. 定期預金の入出金を除く

- 有利子負債は主にファイナンスリース債務の返済が進み、有利子負債残高は1,590億円を見込んでおります。
- 自己資本は連結純利益見通しの計上によって5,440億円となり、自己資本比率を45.7%を見込んでおります。
- キャッシュフローの見通しにつきましては、営業利益1,860億円見通しにおける営業キャッシュフローは2,460億円。
- 投資キャッシュフローはオペレーティングリース機材の買取、航空機前払い金の支払時期の見直しを行ったこと等により、1,310億円となる見込みです。以上の結果フリーキャッシュフローは1,150億円を予定しております。
- 財務キャッシュフローは、繰り上げ弁済を予定しており570億円を見込んでおります。



JAPAN AIRLINES

参考資料

《参考》国際線収入大路別実績



JAPAN AIRLINES

旅客収入(対国際線全体比率)

(単位:%)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期 差	第3四半期	前年同期 差
太平洋線	32.5%	34.0%	+1.5pt	34.5%	+2.5pt
欧州線	19.0%	19.0%	+0pt	17.0%	▲0.5pt
アジア・オセアニア	35.5%	36.0%	+0.5pt	38.5%	+1.0pt
中国線	13.0%	11.0%	▲2.0pt	10.0%	▲3.0pt

有償旅客数

(単位:千人)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期 比	第3四半期	前年同期 比
太平洋線	1,144	1,271	+11.1%	428	+9.9%
欧州線	459	506	+10.4%	165	+6.7%
アジア・オセアニア	2,491	2,987	+19.9%	1,016	+11.0%
中国線	875	853	▲2.6%	229	▲23.4%

ASK

(単位: 百万席キロ)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期 比	第3四半期	前年同期 比
太平洋線	11,189	11,955	+6.9%	4,094	+9.1%
欧州線	6,189	6,221	+0.5%	2,015	▲2.0%
アジア・オセアニア	12,193	12,712	+4.3%	4,324	+2.3%
中国線	2,486	2,498	+0.5%	825	▲3.7%

L/F

(単位:%)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期 比	第3四半期	前年同期 比
太平洋線	76.2%	81.2%	+5.1pt	80.1%	+2.7pt
欧州線	69.9%	76.9%	+7.0pt	77.7%	+6.2pt
アジア・オセアニア	62.1%	73.4%	+11.3pt	76.4%	+11.6pt
中国線	66.2%	64.0%	▲2.1pt	52.1%	▲13.7pt

RPK

(単位: 百万人キロ)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期 比	第3四半期	前年同期 比
太平洋線	8,523	9,711	+13.9%	3,278	+12.9%
欧州線	4,326	4,781	+10.5%	1,566	+6.5%
アジア・オセアニア	7,572	9,336	+23.3%	3,303	+20.7%
中国線	1,645	1,599	▲2.8%	429	▲23.8%

《参考》2013年3月期業績予想(航空運送事業)



JAPAN AIRLINES

(前年同期比%)	国際旅客			国内旅客		
	上期(実績)	下期(予想)	2012年度 (今回予想)	上期(実績)	下期(予想)	2012年度 (予想)
ASK	+4.5%	+4.7%	+4.6%	+7.6%	▲1.1%	+3.1%
RPK	+17.1%	+5.5%	+11.0%	+7.7%	▲1.3%	+3.1%
有償旅客数	+17.7%	+2.1%	+9.4%	+7.4%	▲0.4%	+3.4%
座席利用率(%)	76.2%	73.4%	74.8%	62.6%	62.7%	62.7%
	(+8.2pt)	(+0.0pt)	(+4.4pt)	(0.1pt)	(▲0.1pt)	(▲0.0pt)
ユニットレベニュー(円) ⁽¹⁾	9.5	8.5	9.0	13.4	12.9	13.2
	(+5.4%)	(▲4.8%)	(+0.3%)	(▲4.3%)	(▲1.5%)	(▲2.9%)
イールド(円) ⁽²⁾	12.5	11.5	12.0	21.4	20.6	21.0
	(▲5.9%)	(▲5.6%)	(▲5.6%)	(▲4.4%)	(▲1.3%)	(▲2.8%)
単価(円) ⁽³⁾	55,657	52,184	53,946	16,449	15,723	16,090
	(▲6.4%)	(▲2.5%)	(▲4.2%)	(▲4.2%)	(▲2.2%)	(▲3.1%)

注:

1. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
2. イールド=旅客収入/RPK
3. 単価=旅客収入/有償旅客数

《参考》航空機保有数の推移



JAPAN AIRLINES

航空機数の推移(連結ベース)

		前年度末 2012/3/31			当四半期末 2012/12/31			増減
		所有	リース	合計	所有	リース	合計	
大型機	Boeing 777-200	15	0	15	15	0	15	--
	Boeing 777-200ER	11	0	11	11	0	11	--
	Boeing 777-300	7	0	7	7	0	7	--
	Boeing 777-300ER	13	0	13	13	0	13	--
中型機	Boeing 787-8	2	0	2	7	0	7	+5
	Boeing 767-300	17	0	17	16	0	16	▲1
	Boeing 767-300ER	14	18	32	14	18	32	--
小型機	MD90	13	0	13	4	0	4	▲9
	Boeing 737-400	16	2	18	14	2	16	▲2
	Boeing 737-800	9	32	41	18	31	49	+8
リージョナル機	Embraer 170	10	0	10	11	0	11	+1
	Bombardier CRJ200	9	0	9	9	0	9	--
	Bombardier D8-400	7	4	11	9	2	11	--
	SAAB340B	9	2	11	9	2	11	--
	Bombardier D8-300	1	0	1	1	0	1	--
	Bombardier D8-100	4	0	4	4	0	4	--
	合計	157	58	215	162	55	217	+2

《参考》路線・便数計画の更新情報



JAPAN AIRLINES

国際線

【運休】		
路線	変更内容(往復)	運休時期
	機材	
成田=ヘルシンキ	週間4便⇒週間0便 787-8	2013年02月25日～
【減便】		
路線	変更内容(往復)	変更時期
	機材	
関西=ソウル(金浦)	週間14便⇒週間7便 737-800	2013年3月31日～

羽田=中部線開設に伴う羽田・中部乗り継ぎ便について

羽田	⇒	中部	⇒	羽田
出発		到着	出発	到着
08:10	⇒	09:10	20:45	⇒ 21:45

【羽田路線】	羽田出発時間	羽田到着時間
羽田=ホノルル	23:30	22:00
羽田=サンフランシスコ	0:05	22:20
羽田=パリ	0:40	6:30
羽田=シンガポール	1:00	5:45
羽田=バンコク	1:35	6:00

【中部路線】	中部出発時間	中部到着時間
天津	10:30	17:45

羽田=中部線の開設により、羽田空港の深夜早朝時間帯に運航している国際線、中部空港を発着する天津線が乗継可能となり、中部地区と羽田空港の接続性が向上

国内線

【新規開設】		
路線	変更内容(往復)	開設時期
羽田=中部	1日0便⇒1便	2013年3月31日～

【開設(再開)】		
路線	変更内容(往復)	増便時期
伊丹=松山	1日0便⇒3便	2013年3月31日～
伊丹=函館	1日0便⇒1便	2013年3月31日～
伊丹=三沢	1日0便⇒1便	2013年3月31日～

【主な増便】		
路線	変更内容(往復)	増便時期
羽田=札幌	1日17便⇒18便	2013年3月31日～
羽田=那覇	1日13便⇒14便	2013年3月31日～
伊丹=札幌	1日2便⇒3便	2013年5月1日～
伊丹=福岡	1日2便⇒5便	2013年3月31日～
伊丹=仙台	1日6便⇒7便	2013年3月31日～
伊丹=花巻	1日3便⇒4便	2013年3月31日～
伊丹=新潟	1日3便⇒4便	2013年3月31日～
伊丹=大分	1日2便⇒3便	2013年3月31日～
伊丹=宮崎	1日5便⇒6便	2013年3月31日～

※本表は時刻表スケジュールに基づいております。
787型機運航見合わせに伴う代替機材は含んでおりません。



誠にありがとうございました。

当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務経理本部 財務部

電話番号 03-5460-3068

本資料には、日本航空株式会社(以下「当社」といいます)及びそのグループ会社(以下当社と併せて「当社グループ」といいます)に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点(又はそこに別途明記された時点)において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点(又はそこに別途明記された時点)のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。